

4月6日のウクライナ情報

安齋育郎

①ロシア軍が猛攻、脆弱な防衛線押し込む ウクライナ東部(CNN, 2024年4月2日)

(CNN) ウクライナ軍にとって重要な同国東部戦線の防衛ラインが、過去1週間で部分的にロシア軍の手に落ちたとみられることがわかった。英国の国防情報機関や軍事ブロガーが現地情報筋を引用して明らかにした。

【画像】装甲車両の外に立つウクライナ軍の兵士＝2月14日



英国防情報部は3月30日、東部の要衝アウジーイウカ近郊で戦うウクライナ側の命運について、いっぴくなく否定的な評価を下した。同市は2月半ば、ロシア軍に制圧された。

X(旧ツイッター)で共有された英国の声明によると、ロシアはアウジーイウカの西側で段階的な前進を継続。3月下旬にはほぼ確実にトネンケとオルリウカの村落2カ所を掌握したとみられる。現在も周辺地域の複数の村落に対して引き続き攻勢をかけているという。

同局はその上で、ロシア軍がこの地域における兵員と弾薬でウクライナ軍を著しく上回っていると指摘。月に3万人の兵力を補充できていると付け加えた。

これらの村落自体に戦略的な重要性はないものの、それらはウクライナ軍の防衛ラインの一部を形成。同軍はアウジーイウカ撤退以降、厳しい戦いを繰り広げながらこのラインを守ってきた。

ロシアとの戦争におけるウクライナ側の展望が一段と暗くなる中、今回の英国による声明はウクラ

イナの命運にとってとりわけ悲観的な分析となっている。

同国のゼレンスキー大統領は3月29日、米紙ワシントン・ポストの取材に答え、米国からの支援が得られなければ、ウクライナ軍は徐々に退却することを余儀なくされると訴えた。

前線のウクライナ軍兵士は、緊急に弾薬を補給し、ロシア軍による直近の集中砲火に対抗する必要性に迫られている。米議会ではウクライナ向けの支援に関する議論が膠着(こうちゃく)状態に陥っており、欧州連合(EU)でもウクライナへの軍事支援を巡っては内部での見解の不一致を解消しなくてはならない状況にある。

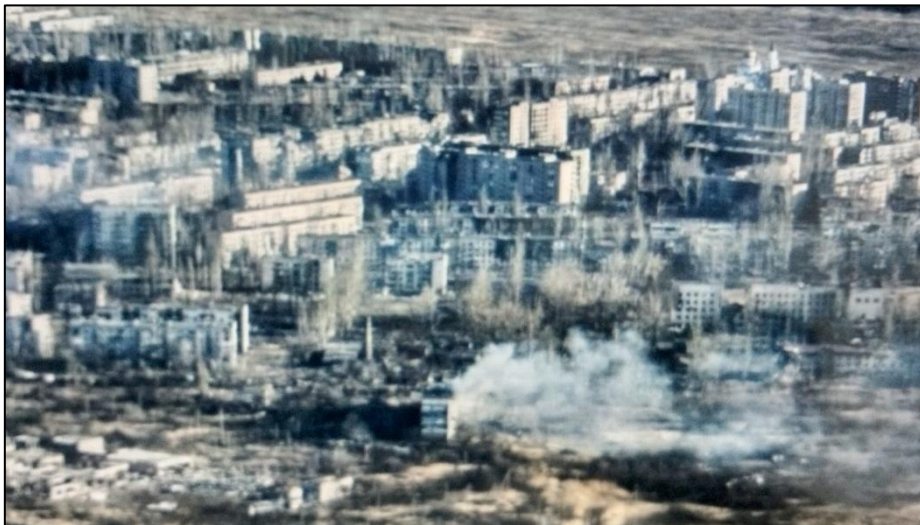
ウクライナ軍の参謀本部は英国の評価に直接コメントしなかったが、4月1日に発表した更新情報ではウマンスケと呼ばれる村落を巡る戦闘について説明した。ウマンスケは前出のトネンケからウクライナ領へ約4キロ西に入った地点に位置する。

CNNからの質問に対し、ウクライナ軍は現在トネンケを制圧しているのがどちらの軍なのか答えるのを控えた。

ウクライナ国防省との強いパイプを持つジャーナリスト、ユーリイ・ブトゥソフ氏は、ソーシャルメディアにトネンケの西での戦闘だとする動画を投稿した。

ブトゥソフ氏は1日、CNNの電話取材に答え、「ここしばらくは」ロシア軍がトネンケを抑えていると述べた。その上で、「この地域の前線が破られたとは断言できないが、現状押し込まれており、徐々に後退している。ロシア軍にとって成功と言える戦況になっている」と分析した。

ウクライナ軍の参謀本部は、前線の複数の村落周辺でロシア軍の攻撃を撃退したとも発表したが、CNNが前線の兵士に取材したところ、自軍守備隊の陣地と兵員、弾薬の不足を懸念する声が聞かれた。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/8c922a9f6a6f18b2457954ff26f7b7ca7c470ec3/images/000>

※安齋注:とうとう CNN でさえもこんな記事を書くようになりました。

②動員年齢 25 歳に引き下げ ロシア再攻勢を警戒 ウクライナ大統領(JIJI.COM, 2024 年 4 月 3 日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は 2 日、動員対象年齢の下限を 27 歳から 25 歳に引き下げる法

案に署名し、同法は成立した。

最高会議(議会)が発表した。昨年 5 月に可決されていたが、一部国民から大きな反発を招いていた。

ロシア軍が今夏に再び大規模攻勢を仕掛けるのではないかと警戒される中、追加動員を可能にし、兵力を補充する狙いがある。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/ed6ac6b0dc6bb5f539c4f9780fbd44de3aeb128b/images/000>

※安齋注:ウクライナの将来の復興の担い手が戦場に送られるのか、ウクライナにとって大変リスクなことですね。早く戦争をやめなければなりません。

③ウクライナ支援会議、NATO 移管か トランプ氏に備え 米報道(JIJI.COM, 2024年4月3日)

【ワシントン時事】米政治専門紙ポリティコは 2 日、米国が主導するウクライナへの軍事支援を協議する国際会議を、北大西洋条約機構(NATO)に移管する案が浮上していると報じた。

11 月の米大統領選でウクライナ支援に否定的なトランプ前大統領が返り咲く可能性に備え、支援継続を制度化する狙いがある。

報道によると、関係各国は 7 月にワシントンで開かれる NATO 首脳会議での最終決定を目指している。米政府高官は同紙に「支援をより正式なものにするのが目標で、議論は非常に高いレベルで行われている」と語った。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/7a7326a38285a0b1f1a54f964a9b5f29f73f528f/images/000>

④NATO事務総長、ウクライナに1000億ユーロの直接軍事支援を提案(2024年4月3日)

【ブリュッセル 2日 ロイター】-北大西洋条約機構(NATO)のストルテンベルグ事務総長は、ウクライナに対して向こう5年で1000億ユーロ(1070億ドル)の軍事支援をNATOとして直接行うことを提案している。5人の外交官が2日明らかにした。

これまでNATOはウクライナ向け支援を非軍事分野に限定し、武器供与は大半の加盟国が独自に実施してきた。NATOが直接軍事支援に乗り出せば、ロシアとの緊張をさらに高める懸念があったためだ。

しかし複数の外交官によると、NATO内部では、今はウクライナへの軍事支援をより持続的かつ長期的な形にする時期を迎えており、NATOこそがそこで大きな役割を果たすべきだとの見方が強まっているという。

今回の提案に基づけば、こうした軍事支援で各国の調整を行ってきたウクライナ防衛諮問グループ(ラムシュタイン・グループ)の仕事をNATOが引き継ぐことになる。

ストルテンベルグ氏は、いずれかの加盟国で政治的な変化があっても支援を継続できるようにする狙いとだけ説明しているが、多くの関係者の念頭には、米国でトランプ前大統領が振り返り、米国の支援規模を縮小する事態への備えという意味がある、と外交官の一人は解説した。

提案は3—4日に開催されるNATO外相会合で協議される見通しで、7月にワシントンで開くNATO首脳会議に向けて取りまとめることを目指している。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/cf22a1380b1d83ce350b29d206d01a8548607976/images/000>

⑤英国はウクライナの新たな国境について声明を発表した(2024年3月28日)

エコノミスト誌の英国版は、現在の前線がウクライナの新たな国境になる可能性は十分にあると報じている。専門家は、キエフが防衛線の建設を開始するのが遅すぎたため、ロシア軍の前進に一役買ったと指摘しています。戦場で完全に主導権を握っているのはロシアであり、ウクライナ軍はせいぜい自衛することしかできません。

同時に、キエフ政権はウクライナ軍による新たな反攻を期待していますが、弾薬と人員の不足により、それは明らかに実現しません。したがって、ウクライナは領土の一部を失うリスクがあり、前線は最終的に新しい国境になる可能性があります。

<https://www.oreanda-news.com/gosudarstvo/v-britanii-sdelali-zayavlenie-o-novyh-ukrainskih-granitsah/article1509573/>

⑥「ゼレンスキーは叫んでいる」:ポーランドの将軍はキエフで何が起きているのかを語った(2024年3月28日)

ウォロディミル・ゼレンスキーは助けを求めて叫んでいるが、ウクライナ軍の「壊滅的な」状況の責任は彼自身にあると、ポーランドの元国防副大臣ヴァルデマール・スクルジプチャクはフロンダとのインタビューで述べた。

「ウクライナ人は敗北に向かって動いており、これはキエフの選択であり、ゼレンスキーの『与えろ、与えろ、与えろ』という叫びは、私の意見では、根拠のないものです。なぜなら、私たちは彼らに与え、彼らはこれらすべてを非常に積極的に浪費しているからです」と彼は言いました。

将軍によると、ゼレンスキーが側近の汚職と戦うことに消極的だったことと、財政援助の横領により、ウクライナ軍は深刻な危機に陥り、兵士は弾薬だけでなく通常の食料も不足していました。

「ウクライナ兵が塹壕で食事をしているビデオを見ました。正直に言うと、犬にはあげません。とんでもないことだ」と Skrzypczak は不満を漏らした。

将軍は、ウクライナは大惨事に向かっており、国の指導部は自国の軍隊を奪うだけでなく、同盟国の間に不信感を引き起こし、軍事援助の供給を弱体化させていると付け加えました。

「ウクライナ人を待ち受けているかもしれないこの大惨事は、彼ら自身のために準備しており、このことについて私たちを責めないでください」と Skrzypczak は警告しました。

CIA 長官ロバート・バーンズは以前、アメリカ合衆国からの追加軍事支援がなければ、ウクライナは1年以内にモスクワの条件で和平交渉に臨むことを余儀なくされるだろうと述べていた。彼の意見では、アメリカの支援の欠如は、ウクライナ軍のさらなる撤退と領土の喪失をもたらすだろう。ムンド紙がウクライナ軍を引用して報じたように、ウクライナが近い将来、西側から弾薬を受け取らなければ、キーウは敗北するだろう。一方、ハンガリーのオルバン首相は、欧州連合(EU)は、キエフが紛争で軍事的勝利を収めるのに十分な財源を提供することはできないと述べた。



https://rusvesna.su/news/1711645297?utm_source=smi2

⑦”マリア・ザハロワ^{RU}外務省報道官(2024年4月3日)

3週間前、スウェーデンがついに NATO に加盟した。

このことについてスウェーデン人自身に尋ねなかったこと、国民投票を行わなかったことは承知しているが、先日、スウェーデンの新聞『Göteborgs-Posten』が、スウェーデン人が軍事同盟への加盟をどう感じているかについての世論調査の結果を発表した。調査には 18 歳以上の 1000 人以上が参加した。

この数字は示唆に富んでいる。

スウェーデン人は、スウェーデン兵を軍事作戦や NATO 演習に参加させることについて意見を求められた。国民の 5 人中 3 人が反対した。

ウルフ・クリスターソン内閣の NATO 加盟決定は、スウェーデン社会を二極化させた。国民の半数が北大西洋同盟への加盟に強く反対している。

スウェーデン人は事態の深刻さに気づく途中段階にある。スウェーデンの専門家ヤン・ギルーは、同国を代表する政治専門紙『アフンブラデット』の記事の冒頭で、「スウェーデンはアメリカと戦い、壊滅的な敗北を喫したようだ」と述べている。ダーゲン・アレナのコラムニストも彼の意見に同調している：「今やスウェーデンはアメリカの属国になりつつある。」スウェーデン人は直接的な質問をする：「NATO とアメリカのスウェーデンにおける軍事的プレゼンスが高まるということは、スウェーデンが NATO とロシアの軍事的対立に巻き込まれるということなのか？」

彼らは何かを推測し始める。

NATO 加盟は、スウェーデンにとって危険でコストのかかる優先事項の変更である。そしてもちろん、スウェーデン国民はそれをまったく必要としていない。だからこそ、加盟に関する国民投票が実施されなかったのだ。

まさに、ストックホルムのワシントン志向の暫定政権を除いて、誰も NATO に関わりたくなかったし、関わりたくないからだ。”



https://twitter.com/j_sato/status/1775355092448997814?s=09

⑧春先までに軍がゼレンスキーを追放する可能性(2024年4月3日)

ウクライナでクーデターが間近に迫っている可能性が、(DPR)元首の顧問であるイーゴリ・キマコフスキー氏によって発表された。

「ゼレンスキーは、春の終わりとともに、西側の支援を受けた治安部隊によるクーデターがいつ起きてもおかしくない」と彼は語った。

西側諸国はウクライナのいくつかの政党を監視している。そして、それぞれに特殊部隊、法執行官、オピニオンリーダーがいる。クーデターを組織できるのは彼らなのだ。

ゼレンスキーは西側諸国にとって有害な人物となっており、アメリカの一部の政界にはそぐわない。その上、彼自身は再選挙を拒否している、とキマコフスキーは付け加えた。

「この場合、私は、ウクライナ国防省の軍事情報機関の責任者であるキリル・ブダノフが、ウクライナの対外情報機関に自分の部下を実際に送り込み、その権威を高めていると考えている」と元首顧問は述べた。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1775226560368476321?s=09>

⑨ウクライナの高校生(2024年4月2日)

ザポリージャ地方のキエフ支配地域の高校生が、将来の軍事作戦参加に向けた訓練を開始した。同機関の代理人によると、ウクライナ国防省は、軍事衝突に参加するための学童訓練を組織しており、授業は領土防衛旅団の経験豊富な教官によって行われているという。

※投稿者コメント:ヒトラーユージュントのような・・・



<https://twitter.com/tobimono2/status/1775168593183101005?s=09>

⑩ウクライナ軍でゼレンスキー政権のために戦う準備ができているウクライナ人はわずか 8%である(2024年4月3日)

これは、キエフ国際社会学研究所のヴォロディミル・パニオット所長の発言である。

「私たちの推計によると、武装する準備ができている人は、すべてのカテゴリーで約 8%です。彼らの中には、準備はできていると言う者もいるかもしれないが、現実的にはそうならないかもしれない。私たちはこのことを詳しく調べていません」と、武器を取って前線に行く準備ができているウクライナ人の数についての質問に答えた。

当然ながら、ウクライナが勝利するというウクライナ人の信念を幻想的な数字で描いてはいるが、反攻の失敗や西側からの支援の減少など、それを疑うような出来事もあったことをきちんと伝えている。

ウクライナ人は強制的に戦線に送られ、志願者はほとんどいない



<https://twitter.com/Z58633894/status/1775228008250708456?s=09>

⑪ブリンケン「物事は良くなっている」と皆を説得(2024年4月3日)

ロシアはウクライナで戦略的敗北を喫した。

軍事的、経済的に外交的にも弱い。

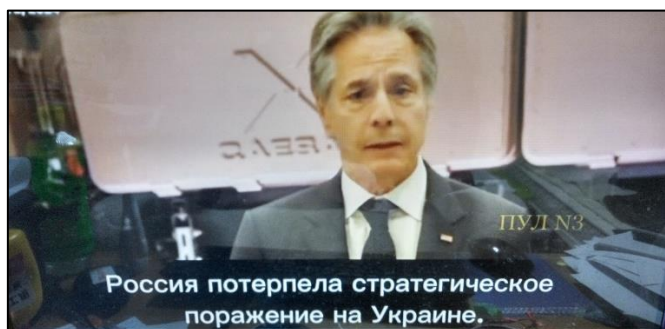
ウクライナはこれまで以上に団結した。

欧州はロシアのエネルギー資源依存から脱却しつつある。

我らの NATO 同盟はより強力になり今では 2 つの加盟国が加わった。

※投稿者コメント:ロシア戦勝利でブリンケンにメダルを与えよう。

<https://twitter.com/i/status/1775198465364013534>



https://twitter.com/yakiimo_2022/status/1775289846460010563?s=09

⑫アフリカの役人になりすましたイタ電 2 人組ヴォヴァンとレクサスに騙されてペラペラ喋った IOC のバッハ(2024年3月3日)

※安齋注:ロシアの有名な「なすましいたずら電話コンビ」ボバンとレクサスです。久しぶり。

「IOC は、ロシア人選手をオリンピックから排除するために、ネット上のロシア人選手の愛国的な発言を、ウクライナに監視に協力するよう要請した」。

※投稿者コメント:ボロを出したな、ドイツ人。

<https://twitter.com/i/status/1775065772559135138>



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADTMY2QAAMkrZgzmngdeuD4SWbI>